

柏センターの歩み

(2005年～2025年)



柏センターは2005年に開所以来、地域の問題に向き合い、人と人をつなぎ、さまざまな地域活動の支援を続けてきました。そして、地域コーディネーターやスタッフが、時間をかけて、ゆっくり蒔いてきた種は、ひとつずつ実を結んでいきました。その地域づくりの20年間をご紹介します。

- ▶ 2005年 地域生活支援センターあいねっと内に開所
- ▶ 2010年 風の村光ヶ丘へ移転

ボランティアの活動を支援する

ボランティアの養成 (2005～2010)

- **傾聴ボランティア講座** (柏市・野田市)
⇒両市に傾聴ボランティアグループを立ち上げ、施設や個人宅での活動をコーディネートしました。
- **高次脳機能障害者のサポートボランティアを養成**
⇒2013年まで活動の場も開拓し、サポートすることで障がい者の社会参加を支援しました。
- **傾聴講演会の開催** (2008、2010)
特に2010年の講演会は注目され87人が参加。ボランティア相談が増えました。

- 福祉事業所からの生活に関する相談から、ゴミ出し、通院同行ボランティア活動がうまれました。

- 2010年に風の村光ヶ丘へ事務所移転してからは**サポートハウスでの入居者のニーズに合った多様なボランティア活動をコーディネート**
・誕生日カードの作成 ・ふれあい喫茶のボランティア ・演芸披露



柏市との協働事業 (2012～2014)

- ～住み慣れた地域でその人らしい暮らしをサポートする見守り事業～
- 地域の町会から相談があり、たすけあい活動の立ち上げを支援しました。40名のサポーターによる活動が2014年4月から開始。



支えあい推進員としての活動 (2015～2023 柏市から受託)

- 団地内の空き店舗活用事業として地域住民のためのコミュニティカフェの開設と運営に取り組みました。
- たすけあい4団体・通いの場2団体の立ち上げを支援しました。
- 買い物支援グループが誕生しました。
- 買い物支援は活動の幅を広げて、たすけあい団体になりました。

柏市と問題を共有し、支えあいを推進する

介護する人を支援する

■ ケアラー支援ネットワーク協議会設立 (2016～2022)

ケアラーネットみちくさと協働し、ケアラー支援ネットワーク協議会を設立し事務局を担いました。2017～2022年「介護者のつどい」などを開催し、専門職と協働し介護者支援の理解と広がりをつくりました。また2022年「ヤングケアラー支援シンポジウム」では、全国から300名(Zoom含む)の参加があり、ヤングケアラーの実態・行政の取り組み状況を知り、私たちは何をしていくかを考えました。



■ ケアラーズカフェくれよん

(2014～2018) 隔月で開催。男性介護経験者も講師として活躍。



住み慣れた地域での暮らしを支える

生活のちょっと困った を支援して自分らしく暮らす

2007年から福祉や生活に対する相談を受け、地域のさまざまな支援情報やボランティアの募集などで対応してきました。

- ゴミ出し・通院同行などのボランティア
- たすけあい団体の立ち上げを支援。保存版“たすけあいリーフレット”を光ヶ丘地区全戸(11000世帯)に配布し、つながることの大切さと活動を伝えることができた。
- 当法人でも風の村の助成を受け、「生活支援有償サービス事業」を開始しました。



生活支援サービス事業

(2013～2025)

風の村の助成を受けて、介護保険制度ではまかなえない生活支援サービスを開始。室内の環境整備・食事作り・病院同行・買い物代行・話し相手…など、生活の困ったを支援して、たくさんの利用者の「自分らしく生きたい」を支えてきました。2016～2025年の8年間で13,843件23,170時間のケアをしました。



居場所づくり

あみいこ柏 (2012～2025)

- 2012年～健康麻雀教室
- 2014年～ニット教室、折紙教室、手芸の会など



【累計企画数】1,180企画【参加のべ人数】15,149人

地域での仲間づくり・交流の場

居場所づくり

安心システム柏

■ 光ヶ丘サロン (2016～2025)

月2回開催…健康講座や味噌づくり、演奏会、ヨガなど。
⇒2025年からは「街の相談室 光ヶ丘」として継続しています。

■ 街の縁側よって (2018～2025)

週1回、昼食を提供し、施設利用者や家族も参加しました。コロナ禍休止ののち「認知症カフェよって」として再開。認知症で参加できなくなった利用者の生活をボランティア達が支え、認知症看護認定看護師(写真左)による認知症予防の講座と相談を企画。推進会議に風の村の全事業所長が参加し、職員の参加が増え、活動への理解が深まるとともに、連携した講座の開催や相談対応や、介護サービス利用者の参加につながりました。



居場所づくり

子ども支援 …… 子どもたちを見守り・はぐくむ ……

コミュニティデザイン (2019～2022) の取り組みなどから生まれました。

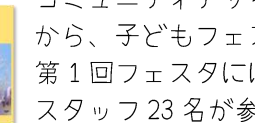
■ 算数教室「単元王」(2020～2025)

コロナ禍での子どもの学力低下を心配した元教師たちが講師になり、地域ボランティアに見守られて、無料の学習支援が始まりました。手作りの教材や、長期休みの特別教室などにより、子どものやる気が育ち、成果を出しています。



■ 子どもフェスタチーム (2022～2025)

コミュニティデザインのワークショップから、子どもフェスタチームが誕生。第1回フェスタには140名・スタッフ23名が参加してにぎわいました。子どもフェスタは2025年まで6回開催し、若いママたちが企画を練り、子どもから高齢者まで楽しみました。



■ つなぐ・つながるくれよん (2023～2025)

美味しいご飯を食べて、楽しく遊ぶ！



生活支援ケア者が中心となって子どもの居場所・子ども食堂「つなぐ・つながるくれよん」を運営しました。参加者とは顔の見える関係になっています。フードパントリーも実施しています。

- 算数教室「単元王」は自立して継続！
- つなぐ・つながるくれよんも継続！
- 子どもフェスタは「風の村みんなのフェスタ」として開催を期待！

ケア者有志が手を挙げて地域住民主体のたすけあい団体「たすけあいマカロン」として途切れることなくケアを提供中！

■ 健康麻雀教室は、サポーターを中心に地域のサークルとして開催を継続中！

街あっとが支援してきた成果が実を結び
地域の力で活動が引き継がれました！
これからも地域の手で継続されることを願います